

◎適期播種・適期防除（赤かび病防除は必須）・適期収穫に努めましょう

発行：香川県農業協同組合
監修：香 川 県

10月		11月		12月		1月		2月		3月		4月		5月		6月											
排水対策 (ほ場の乾田化)				耕起／播種・排水溝の設置 (溝あけ)				麦踏み・土入れ				刈取り／乾燥調製															
雑草防除 (播種前) 種子消毒				雑草防除 (初期)				土入れ 追肥・土入れ				アブラムシ防除 赤かび病															
(浅耕) (溝あげ) (雑草) ・稲刈取後のワラを浅く(3〜5cm)鋤き込む。 ・排水溝を設置し、ほ場の過湿を防ぐ。				(消毒) ・伝染病対策として種子粉衣・種子更新を毎年行い種子とする。(バレル播)				(雑草) (排水) ・除草剤を散布する。 ・雑草の発生が多い場合は、排水溝と落水口を確実に随時、補修を行う。 ・初期除草剤は、播種後かまた、かけムラのないよう、効果が高い。				(麦踏み) (土入れ) ・抑草効果もある。 ・排水溝の補修を同時に行う。 ・中包までに土が乾いた状態で麦踏みは節間伸長期前(2月中旬)までに土が乾いた状態で追肥後に行う。				(雑草) (追肥・土入れ) ・除草剤は露がなくなつてから散布する。 ・追肥後に土入れを行うと効果が高い。 ・2月下旬〜3月上旬にかけて追肥。				(防除) (必須防除) ・アブラムシ類の発生初期に防除する。 ・その7〜10日後に行う。 ・赤かび病の防除は、開花始めと刈取り前に必ず異種麦や雑草の種が混ざらないようにする。 ・ラを抜き取り、異種麦や草(カラスノエンドウやヤエムグ)刈取り前に必ず異種麦や雑草				(刈取り) (乾燥) ・刈取適期は3〜4日間と短い広がり出しの頃。 ・30%以下になれば始め、25%以下になれば刈取りは穀粒水分がめ速やかに収穫する。 ・刈取適期は3〜4日間と短い広がり出しの頃。 ・30%以下になれば始め、25%以下になれば刈取りは穀粒水分がめ速やかに収穫する。 ・や品質が低下するため注意する。 ・収穫が遅れると収穫ロスの増加			
排水溝の事例 (播種直後) 																刈取適期目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>播種時期</th> <th>出穂後の目安</th> <th>刈取適期の目安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11月中旬〜下旬</td> <td>47日前後(43日〜50日)</td> <td>水分含量25%以下 (穀粒に爪の跡が残らなくなった頃)</td> </tr> </tbody> </table>				播種時期	出穂後の目安	刈取適期の目安	11月中旬〜下旬	47日前後(43日〜50日)	水分含量25%以下 (穀粒に爪の跡が残らなくなった頃)		
播種時期	出穂後の目安	刈取適期の目安																									
11月中旬〜下旬	47日前後(43日〜50日)	水分含量25%以下 (穀粒に爪の跡が残らなくなった頃)																									
播種前の排水溝設置作業				落水口と排水溝の連結				土入れ作業				刈取適期の穂 															

播 種 期	節間伸長開始期	出 穂 期	開 花 期	成 熟 期
11月15日	2月23日	4月8日	4月18日	5月25日
11月24日	3月4日	4月12日	4月19日	5月28日

(香川県農業試験場(綾川町) R6～7年産ドリル播)

播 種 適 期		播種量 (kg/10a)	苗立目標 (本/㎡)
中山間地	11月10日～20日	9(8～10)	160～180
平坦地	11月15日～30日		

注1) 播種適期より早い播種は、過繁茂になりやすく、倒伏や凍霜害のおそれがある。
注2) 12月10日より遅い播種は、収量・品質が低下するおそれがある。
注3) 標高が高く冷涼な中山間地域では、平坦地に比べて成熟期が遅れ、収穫が梅雨と重なる場合がある。

肥 料 名		全 量	基 肥	追 肥 (2月下旬～3月上旬)	成 分		
					窒素	リン酸	カリ
い ず れ か	硫 加 燐 安 4 0 2	80	35	45	11.2	8.0	9.6
	(朝 日 B B 4 8 8)				11.2	6.4	6.4
	(PKセーブエコ488)				11.2	6.4	6.4
土 壌 改 良 資 材		60～100	60～100				

注1)ほ場の地力、麦の生育状況等により、施肥量は加減する。
 注2)1月に栗色の低下が見られる場合、速やかに追肥を20kg/10a施用し、残り25kg/10aを表中の追肥時期に施用する。
 注3①)内の肥料は低PK肥料のため、5年を目途に土壌診断を実施する。

肥 料 名		全 量	基 肥	追 肥 (2月下旬～3月上旬)	成 分		
					窒素	リン酸	カリ
い す れ か	硫 加 磷 安 4 0 2	90	35	55	12.6	9.0	10.8
	(朝 日 B B 4 8 8)				12.6	7.2	7.2
	(PKセーブエコ488)				12.6	7.2	7.2
土 壤 改 良 資 材		60～100	60～100				

注1)ほ場の地力、麦の生育状況等により、施肥量は加減する。
 注2)1月に黄色の低下が見られる場合、速やかに追肥を25kg/10a施用し、残り30kg/10aを表中の追肥時期に施用する。
 注3)①内の肥料は低PK肥料のため、5年を目途に土壌診断を実施する。

肥 料 名	ほ場の水はけ	基 肥	成 分		
			窒素	リン酸	カリ
さ め き の 夢 一 発	良い	65	13.0	7.8	7.8
	悪い	70	14.0	8.4	8.4
土 壌 改 良 資 材		60～100			

注1) 基肥一発施肥体系であっても、麦の生育に応じて追肥が必要な場合がある(特に暖冬・多雨年の場合)。
 注2) タン/クワ質含有率の低い場合は、基肥70kg/10aを選択する。

▼土壌改良資材の一覧表					成分(%)
肥 料 名		ケイ酸	苦 土	アルカリ分	鉄 分
い ず れ か	粒状ユーキ鉄ケイカル	23	4	34	15
	麦 楽	10	5	51	0
	粒 状 苦 土 石 灰	0	15	53	0

注)前年にpHの低下による酸性障害がでていたほ場には、苦土石灰を100～150kg/10a程度施用する。
なお、pHを0.5上げるためには、苦土石灰約100kg/10aが必要。

除草剤・雑草名	ヤエムグラ	カラスノエンドウ	スズメノテッポウ	タデ
ハーモニーDF	○	△	○ 注2)	△
エコバートフロアブル	○	△	—	△
バサグラン液剤	○	△	—	○
MCPソーダ塩	△	○	—	△

注)○:効く △:多少は効く 一:登録なし 注2)SU抵抗性スズメノテッポウに対しては効果が劣るため、非選択性除草剤と土壌処理剤(初期)、土入れなどの体系処理を行う。

種 名	ヤエムグラ	カラスノエンドウ	スズメノテッポウ	タデ	スズメノカタビラ	カスノコグサ	キツネノボタン
草 姿							
防 除 の ポイント	中期除草剤による 防除	収穫前に 必ず 抜取	初期除草剤と中期 除草剤の体系防除	中期除草剤による 防除	中期除草剤による 防除	播種前と初期除草 剤の体系防除	中期除草剤による 防除

①排水対策
播種前対策：ほ場の周囲(ヨケ)と5m間隔に排水溝を設置するとともに、スタブルカルチやサブソイラー、弾丸暗きょを施工する
播種後対策：ロータリー幅ごとに深さ15～20cmの排水溝を設置し、落水口と確実に連結する

②土づくり肥料の施用で酸度矯正(適正pH6～6.5を目安とする)

③適切な肥培管理

④雑草の体系防除
播種前、初期、中期除草剤の体系処理による雑草防除の徹底

⑤病害虫の防除
赤かび病の適期(開花始めとその7～10日後の2回)防除

⑥収穫の適正化
適期収穫・雑草種子(カラスノエンドウ・ヤエムグラ)の混入防止

①種子消毒					
病害虫名	薬 剤	希釈倍数等	使用時期／回数	注意事項	
黒根疫病	ベンレートT水和剤20	乾燥種子重量の0.5%	播種前／1回	種子1kgに対し5gを粉衣する。	
	ベンレートTコート				

病害名	防除時期	薬 剤	希釈倍数等	使用時期 回 数	散布方法・注意事項等
赤かび病 ※必須防除	開 花 始 め (1回目防除)	トップジンM 水和剤	1,000～ 1,500倍	収穫14日前まで / 2週間、1回42回以内	10a当たり100ℓの水に(66.6～100g)溶き噴霧機等で散布する。
	1回目防除の 7～10日後	ワークアップ フロアブル	2,000～ 3,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	10a当たり100ℓの水に(33.3～50ml)溶き噴霧機等で散布する。
アブラムシ類	発 生 初 期	アグロスリン 乳剤	2,000倍	収穫21日前まで / 3回以内	10a当たり100ℓの水に(50ml)溶き噴霧機等で散布する。

区分	薬 剤	対象雑草名	使用時期／回数	10a当たり 使用量	散布方法・注意事項等
播種前のみ (表土のみに 非選択性除草剤)	ザクサ液剤	一年生雑草	耕起または 播種前 (雑草生育期) ／1回	300～ 500㎖	10a当たり100～150ℓの水に溶き、雑草の 茎葉全体に均一にかかるよう散布する。 播種後は散布できない。
	ブリグロックスL	一年生雑草	播種前または播種後 出芽前／4回以内	600～ 1,000㎖	10a当たり100～150ℓの水に溶き、雑草の 茎葉全体に均一にかかるように散布する。
	ラウンドアップ マックスロード	一年生雑草及び 多年生イネ科雑草	耕起前または播種後 出芽前(雑草生育期) ／3回以内	200～ 500㎖	(通常散布) 10a当たり50～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 (少量散布) 専用ノズルで散布する。
初期除 草	ボクサー	一年生雑草	播種後～麦2期まで (雑草発生前～発生初期) ／2回以内	400～ 500㎖	10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等 で散布する。 抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、 薬量を所定の範囲内で多めにする。 ノミノフスマには効果がある。
	リベレーター フロアブル	一年生雑草	播種後～麦3期まで (雑草発生前～イネ科 雑草1葉期まで)／1回	60～ 80㎖	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 播種深度が浅い場合は薬害を生ずる場合があるの で使用しない。 抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬量 を所定の範囲内で多めにする。
	リベレーターG	一年生雑草	播種後～麦2期 (雑草発生前～ イネ科雑草1葉期 まで)／1回	4～5kg	手まきまたは散粒機等で均一に散布する。 抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、 薬量を所定の範囲内で多めにする。 土壌表面が過乾燥の場合は、効果が劣る。
	ハーモニーDF	一年生広葉雑草 及びスズメノ テッポウ	麦3期～節間伸長前 (スズメノテッポウ5葉 期まで)／1回	5～10g	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 器具を使用後、速やかに石灰灰水500倍液でよく 洗浄する。 抵抗性スズメノテッポウには、効果がない。
中期除 草注1)	エコバート フロアブル	一年生広葉雑草	節間伸長開始期まで (一年生広葉雑草 2～4葉期) (ただし、収穫45日前 まで)／2回以内	50～ 100㎖	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布す る。 散布後、軽微な白斑・褐斑を生じることがあるが その後の生育・収量に影響はない。
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草 (イネ科を除く)	生育期但し 収穫45日前まで ／1回	100～ 200㎖	10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散 布する。 イネ科雑草には効果がなく、イネ科雑草が混在する 場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。
	MCPソーダ塩	一年生及び 多年生広葉雑草	幼穂形成期但し、 収穫45日前まで ／1回	200～ 300g	10a当たり70～100ℓの水に溶き、 噴霧機等で散布する。 分けつ抑制作用があるため、莠数が十分確保 されてから散布する。 暖かい日が続く時期に散布すると、除草効果が 高い。

注1) 早播きの場合や初期除草剤の散布が遅れた場合、初期除草剤散布後に降雨があった場合など、雑草が繁茂している場合は、時機を逃さないように、天候を見ながら、なかから中期除草剤により雑草防除を行う。

注2) ①②③について記載している薬剤の使用基準は令和7年7月1日現在のものであり、今後変更になる場合があるので、使用する際は薬剤のラベルをよく読み、ラベルの記載内容どおりに使用する。

作成：2025年8月

土づくりのため、麦わらは焼かずにすき込みましょう！